琉球大学学術リポジトリ

腎動脈狭窄症に対する経皮経管的腎動脈形成術の効果に影響を与える因子:後ろ向きの連続50症例の検討

メタデータ言語: en出版者: 琉球大学
公開日: 2018-03-15
キーワード (Ja):
キーワード (En):
作成者: 又吉, 哲太郎, またよし, てつたろう
メールアドレス:
所属:URLhttp://hdl.handle.net/20.500.12000/38765

文 審 查 結 果 0 要 旨 課程博 又古哲太郎 報告番号 * 第 号 氏 名 論文博 查 平 30 年 2 審 日 成 月 14) 主查教授 論文審查委員 副查教授 副查教授

(論文題目

Factors Associated with Outcomes of Percutaneous Transluminal Renal Angioplasty in Patients with Renal Artery Stenosis: a Retrospective Analysis of 50 Consecutive Cases

(腎動脈狭窄症に対する経皮経管的腎動脈形成術の効果に影響を与える因子:後ろ向きの連続50症例の検討)

(論文審査結果の要旨)

上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。

1. 研究の背景と目的

腎動脈狭窄症に対する経皮的腎動脈再建術 (PTRA)と保存的治療の有効性を比較した最近の2つの大規模臨床試験で、PTRAの優位性が示されなかったことから、世界的に腎動脈狭窄症に対するPTRAの実施は謙抑的になった。一方で、両試験はPTRAにより有効性が得られる蓋然性が高いと担当医師が判断した症例は除外されており、適応選択に資する情報は乏しい。我々は日本人の腎動脈狭窄症へのPTRAの適応判断の参考となる情報を得るため、PTRAの有効性に関係する因子の検討を行った。

2. 研究内容

方法:2001年~2005年に国立循環器病センターで初回のPTRAを実施した、血行動態上有意と考えられる腎動脈狭窄症の連続50症例を後ろ向きに観察した。主たる評価項目はPTRA後の血圧改善(平均血圧で5mmHg以上の降圧または服用降圧薬の減量の複合)、PTRAから1年後の血清クレアチニン値から推定した糸球体濾過量(eGFR)の変動とした。PTRAの有効性に寄与しうる因子としてPTRA前の年齢、性別、体格指数、耐糖能異常の有無、脂質異常症の有無、両側腎動脈狭窄の有無、血管抵抗係数(RI)、血漿レニン活性、平均血圧、eGFRおよび造影剤使用量(腎機能予後のみ)を想定し、これらと血圧改善ならびにeGFRの変動との相関を検討した。

結果:症例の原疾患別の内訳は動脈硬化性42例、線維筋性異形成6例、高安動脈炎2例であった。平均年齢は61.5歳、PTRA前の血圧152.3/80.3mmHgはPTRA後に132.6/73.2mmHgと統計学的有意に低下し、降圧は1年後も維持された。服用降圧薬数も平均1.98剤からPTRA後に1.28剤と統計学的有意に減少したが、1年後には1.95剤と前値に戻った。血圧改善が73%の症例に認められた。血清クレアチニン値から推定した糸球体濾過量(eGFR)はPTRAの前後で統計学的に有意な変動は見られなかった。血圧改善を予測しうる因子はなかった。PTRA前のRI高値と耐糖能異常の存在は腎機能の予後不良と相関していた。耐糖能異常の存在はRI高値と相関していることが知られ

ており、本研究でも同様の相関が認められたことから、多変量解析ではRIと、年齢、性別、BMIおよび造影剤使用量を加えたモデルで調整を行った。調整後もRI高値と腎機能の予後不良との間で統計学的に有意な相関を認めた。病型分類別では線維筋性異形成と高安動脈炎では症例数が少なく評価困難であったが、動脈硬化性の腎動脈狭窄症では全体と同一の結果が得られた。

結論:血行動態上有意な腎動脈狭窄症に対して、PTRAは血圧を低下させた一方で腎機能の改善は得られなかった。PTRA前のRI高値は腎機能の予後不良を予測する因子であった。

3. 研究成果の意義と学術的水準

腎動脈狭窄症に対する PTRA の有効性を検討した報告は海外にもあるものの、国内ではきわめて希少であり、50例の症例を集めて報告したことには意義がある。PTRA の適応に関する国内外のガイドラインでもエビデンスレベルは B 止まりであり、また、血行動態上有意な腎動脈狭窄に対する臨床試験では倫理的な配慮から無作為割り付けが困難であることから、後ろ向き研究であっても、適応決定に対する貢献は少なくないと考えられる。

本研究の結果は海外で行われた臨床研究の報告を日本人にも適応できることを確認するものであり、日本人における腎動脈狭窄症の治療方針を決定する上で重要な知見であると考えられる。

以上により、学位授与に十分に値するものであると判定した。

- 備 考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字~1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。